

広島大学 高等教育研究開発センター 大学論集  
第49集（2016年度）2017年3月発行：209-224

## 中国の学士課程教育評価に関する研究の回顧と課題

林 師 敏



# 中国の学士課程教育評価に関する研究の回顧と課題

林 師 敏\*

## 1. はじめに

本稿は、これまでの中国における学士課程教育評価研究のあり方を振り返り、研究の現状について考察するとともに課題を明らかにすることを目的とする。

本稿では、中国知網（www.cnki.net。日本のCINIIに相当する。以下、CNKI）という学術的テキストの検索機能を用いて、学士課程教育評価に関する論文索引と文献目録を検索した上で、1985年から2015年にかけて発表された中国の学士課程教育評価<sup>1)</sup>に関する代表的な研究成果を研究対象とした。特に『中国高等教育』、『高等教育研究』（中国語）、『北京大学教育評論』、『清華大学教育研究』などの中国語の代表的な学術誌に載っている論文を対象とした。また、『中国教育報』と『光明日報』などの新聞を閲覧し、学士課程教育評価に関する報告、教育部関係者の講演等の書面資料を分析対象とした。

日本語の「大学評価」に対応する中国語は時期によって異なっているため、本稿の参考文献が示す通り、多様な用語を検索のキーワードとして用いた。例えば、1990年代まで「教育評価」、「評価」、「大学評価」、「高等教育評価」等が使われていた。2000年以降、「本科教学工作評価」、「本科評価」や「本科教学評価」等の用語がよく使われている。また、英語の「Evaluation」や日本語の「評価」は、中国語で「評價」と「評価」の2つの訳語があるが、大きな意味の違いはない。前者は主に1990年代まで使われていたのに対して、後者は近年使用されている用語である。以上の検索のキーワードに基づいて収集した文献・論文は合計で1,278点となり、すべての研究を取り上げて考察する余裕がないため、本稿では、参考文献リストに示した論文と文献を検討対象とした。

まず、中国の高等教育研究の動向を次のようにまとめることができる。鐘ら（2009）は、2006年～2008年の中国における高等教育研究、その研究方法と研究分野の関係性を考察している。その結果、8つの研究方法の中で、分析法（81.91%）、比較法（6.10%）と文献法（5.17%）が上位を占めているが、統計法（1.16%）、他の方法（0.87%）と事例研究（0.58%）が下位を占めている。鐘らは、その3年間中国における高等教育研究で、研究分野の広がりにつれ問題意識が高まり、理論研究が主導的地位に対して政策研究が不足、定性研究や経験報告的な研究が多いのに対して実証研究が少なく、マクロ的な研究の重視が始まったのに対して大学の基礎研究が不足、国際比較研究が盛んに行われているが、高等教育研究への中国化が乏しい、という特徴を捉えている。また、楊（2015）は、南京大学が保有するCSSCI（Chinese Social Science Citation Index）データベースに基づいて、2004年から2014年にかけての中国における高等教育研究の論文数（5258本）を定量分析した結果、この

\* 広島大学大学院教育学研究科教育人間科学専攻（高等教育学）

10年間の中国における高等教育研究は、高等教育改革や、高等教育質保障、高等教育公平、高等教育学、外国高等教育、高等教育大衆化、私立高等教育といった7つの研究分野に集中してきたと述べている。

次に、中国における学士課程教育評価に関する研究について、汪・楊（2010）は、「教学評価」というキーワードで、CNKIの2003年から2008年にかけての研究成果を検索し、研究テーマや内容の考察により、中国における大学評価研究のトレンドを年毎にまとめている。大学評価の進行とともに2005年から大学評価研究が倍増したと指摘している。具体的に、2003年の研究内容は各大学の視点から評価指標の理解や説明に関するものが多かったが、2004年の研究は各大学がいかに自己評価をするか、評価専門家による外部評価を対応する準備を行うかという点に焦点を当ててきた。2005年の先行研究はその量的な成長とともに、大学評価による自己評価や教育活動の整備・改革に移してきたという特徴がある。評価活動の半ばにある2006年の先行研究は、評価を受けた大学の増加により、大学関係者や社会が大学評価による高等教育の課題や大学評価の改善措置などに注意を払ってきた。2007年と2008年は、第1ラウンドの大学評価に関する回顧や第2ラウンド評価に向けての改善策や構築の構想が盛んに行われた。

また、呉（2014）は、「高等教育評価」の用語で2009年から2013年にかけての中国国内の研究を考察した。その結果、その5年間の研究文献では、外国の大学評価、中国の大学評価政策、外部評価機構の研究と中国の大学評価制度の改善策といった研究内容に集中してきた。

さらに、卞・許（2012）は、『高等教育研究』、『中国高教研究』、『高等工程教育研究』、『教育発展研究』と『高教探索』といった中国における5つの高等教育関係学術誌を対象に、大学評価や質保証に関する研究成果を分析したうえで、その10年間、大学評価研究を中国の大学評価に関する研究と外国の大学評価に関する研究という2つのカテゴリーに分けることができると指摘している。中国の大学評価研究では、大学に関するものが最も多く、特に大学レベルの整備や評価の対応策、教職員、専攻・学科、学生の4つの領域が上位の4位を占めた。外国の大学評価研究は、アメリカの大学評価に関する研究が半分以上を占めた。しかし、この10年間の大学評価研究では、中国国内外の大学評価に関する研究成果は全体の70.40%を占め、大学評価の基礎研究や評価研究方法の開発に関する研究はわずか全体の29.60%を占めており、中国では大学評価の基礎研究の不足や評価開発の課題が浮上してきたと述べている。

一方、中国の大学評価研究を総合的に検討する成果がある。とりわけ歴史的な視点から、学士課程教育評価に関する政策、評価活動の実施、課題を取り上げて論じる論文が多かった。例えば、辛・張（1995）、陳・李（2000）などは大学評価研究、評価政策、評価活動の展開に着目し、1980年代から1990年代にかけての学士課程教育評価を紹介した。

上述の通りに中国の大学評価に関する先行研究をまとめると、中国の大学評価は、いくつかの用語を限定して検索された研究成果がレビューされている。しかも検討対象は中国国内外の大学評価であるため、中国国内の大学評価に関する研究の全体像が必ずしも明らかにされているとは言えない。そこで、本稿では中国の学士課程教育評価に関する中国語の研究文献に着目して、この30年間に亘って多様な用語を用いた中国における学士課程教育評価研究成果を歴史的・総合的に検討す

る。この意味で、本稿は中国の学士課程教育評価研究の理解に役立つという点に意義が深いと思われる。

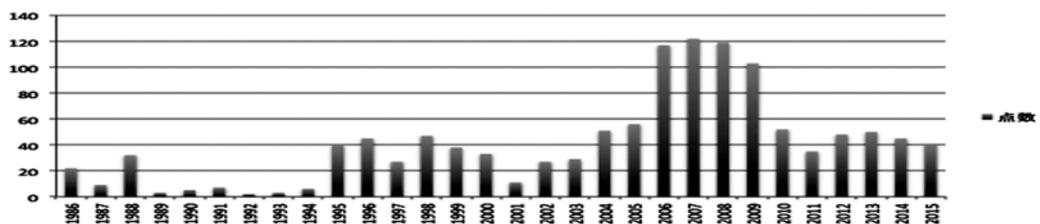
本稿ではまず中国における学士課程教育評価研究の変動と研究成果の概観を述べる。その上で、中国の学士課程教育評価研究の現状を詳細に検討する。以上の考察を踏まえ、中国における学士課程教育評価の研究のあり方と課題を検討する。

## 2. 中国における中国の学士課程教育評価の研究成果の概観

### (1) 中国における学士課程教育評価研究の変化

中国の学士課程教育評価を評価理念と評価形態から見ると、1985年から1993年にかけての大学評価導入期、1994年から2002年にかけての大学評価の展開期、2003年から2008年にかけての大学評価の制度化（第1ラウンド）、2009年から現在に亘るの大学評価（第2ラウンド）という評価時期に区分できる。

中国の学士課程教育評価を対象とした研究文献を整理すれば、評価時期ごとの研究成果は、異なっている点が見られる。1980年代の、研究焦点はどのように大学評価を試行するかに留まっている。1994年から2002年までの大学評価の展開期において、大学評価は機関別評価である合格評価や優秀評価などの多様な評価形態で実施され、しかも大学の類型に従う評価指標や大学評価委員会などの評価システムが構築されていた。当時、教育部が所管した『中国高等教育』という学術誌が、「教学質量百校行」（日本語訳：「教育の質に関する百校への見学」、記者による評価を受けた大学への見学・体験）という評価コーナーを開設し、大学評価の新聞記事、実践描写や評価報告などの文章を載せている。例えば、（孫，1995）「評価質量，有章可循——国家教委制定各科類教学工作合格評価方案—」（日本語訳：国家教育委員会による各分野教育の合格評価指標の制定：教育の質と基準）、（高等農林本科学校教学工作評価課題組，1998）「从教学合格評価見高等農林教育改革」（日本語訳：合格評価からみた高等農林教育の改革）などが挙げられる。2003年以降、評価研究の対象は、制度、政策、課題、評価指標等に広がっている。これらは、大学や研究者が学士課程教育評価を重視しているとともに、学士課程教育評価研究の多様化が進んでいることを示している。



出典：筆者作成

図1 中国の学士課程教育評価研究の経年的推移

図1に示す通り、中国の学士課程教育評価研究は、継続的に増えてきた傾向がみられる。まず、1994年までの間に、評価研究が少ない傾向が見られる。例外なのは、1986年と1988年の試行的な評

価活動の実施年度の研究文献が多くなったことである。続いて、1995年から2003年までの間に年間40件近くの評価研究文献が刊行されていたが、学士課程教育評価の制度化時期、特に2006年から2009年まで、年間ごとに100件以上の研究文献が刊行された。2003年と2004年に42校と54校が評価を受けたが、2006年133校、2007年198校、2008年87校の大学が評価を受けており、このように、評価を受けた大学が増えたことが、大学関係者や研究者の大学評価への関心を広げたものと考えられる。また、第1ラウンド評価後（2009年）にその課題のまとめや評価の改善に着目した研究文献が多くなっている。2013年に、第2ラウンド評価が始まり、第2ラウンド評価に関心を払った研究文献が40件近く維持されている。要するに、中国における学士課程教育評価の研究は政策的動向に伴って数が増えている。

## (2) 媒体別の研究成果の概観

以上の経年的な研究成果では論文、会議の基調講演、編著書、新聞紙の文章等を含んでいる。そのうち、論文や論稿は最も多く、全体の90%以上を占めた。新聞紙の文章と編著書はそれほど多いとは言えない。こうした論文と論稿は、1980年代から中国の大学評価の導入から2015年まで新たな大学評価制度にかけての研究成果である。その刊行は、大学の紀要、機関誌と学会誌にある。本稿で統計した論文や論稿の大部分は、その要旨と内容が中国知網([www.cnki.net](http://www.cnki.net))の索引で検索できる。

政府関係者と教育部関係者の基調講演資料については、評価報告書と新聞紙に掲載されている。例えば、李（2009）が編纂した「中国高校本科教学評価報告（1985－2008）」という評価報告書では、2005年3月26日に開かれた「2005年度普通高等学校本科教学工作水平評価研討班」（日本語訳：2005年度大学における学士課程教育評価の研修会）で、評価専門家の許（2005）が行っていた「關於普通高等学校本科教学工作水平評価工作程序」（日本語訳：学士課程教育評価活動のプロセス）の基調講演を掲載している。

また、中国では現時点で、大学評価に関する外部評価報告書や自己評価報告書などが公開されないため、評価に関する報告書のデータ資料はないと言える。ただし、一部の報告書が学会誌と機関誌の論文・論稿や編著書の形で公表されているため、例えば、教育部委託研究グループの李（2006）による「具有実践意義的本科教学評価改革」も李（2009）が編纂した「中国高校本科教学評価報告（1985－2008）」も、教育部が組織している「普通高等学校分類評価指標体系和方法研究」課題組（日本語訳：学士課程教育の評価指標と方法に関する研究グループ）による「具有実践意義的本科教学評価改革」研究（日本語訳：実践的な意義がある学士課程教育評価に関する改革）の一部成果である。このような編纂書は、中国の学士課程教育評価に関する公的な研究文献であると考えられる。

新聞に関しては、主に大学関係者へのインタビュー記事、評価に関する大学関係者による投稿や新聞記事といった内容構成である。『中国教育報』、『光明日報』や『中国青年報』などが代表的な新聞紙である。例えば、『中国教育報（1998年4月25日第1版）』に掲載された「宏観管理的有効手段 — 開展高校教学工作合格評價的啓示之三」（日本語訳：高等教育における合格評価の示唆：マクロ的管理への有効的な方法）が、1990年代の学士課程教育評価に関する論説であった。

### (3) 方法別の評価研究の概観

研究手法をみると、全体の9割以上が文献・史資料研究に分類される。文献・史資料研究が圧倒的に多い状況は、中国の学士課程教育評価研究に関する特徴的な点である。研究内容や研究焦点に合わせてみると、中国の学士課程教育評価研究では、評価制度、政策と活動を総合的に取り上げるものが極めて多い。そして、評価主体、評価政策、評価制度、課題を対象とした研究文献は、主に政策や資料等を中心にした考察に留まっている。そのため、文献分析や資料分析の研究手法が主流である。定量分析や統計研究の手法が少ないのは、一つは、中国における人文系の研究助成経費が足りないため、定量研究の実施に課題がある。もう一つは、多くの中国の大学（部局や学部）はアンケート調査に回答する慣例がなく、大学外からのアンケート調査依頼やインタビュー調査などを拒否する心構えが強いからだと考えられる。

## 3. 中国における中国の学士課程教育評価の研究動向

本節では、収集した1,278点の文献・論文については、その研究テーマや内容に即して、できるだけ研究動向を大括りに把握できるよう7項目に分類した。代表的な研究文献を取り上げて論じる。これら文献・論文は複数に跨る研究もあったが、その場合、その研究テーマと内容を考慮して、そのうちのいずれか一つの項目に分類した。研究テーマ別にみた中国の学士課程教育評価の全体状況を見たのは表1である。「(1) 評価の概説・総論」が多い。それは、評価政策、政策、評価活動を含めて総合的に論じている研究成果が多いからである。また、学士課程教育評価における「(6) 評価事例」と「(3) 評価効果・課題」が注目された傾向が見られる。

表1 研究テーマ別にみた中国の学士課程教育評価研究

(1) 評価の概説・総論（動向、改革）	49%
(2) 評価政策・制度	5%
(3) 評価効果・課題	12%
(4) 評価指標	5%
(5) 評価主体	8%
(6) 評価事例	16%
(7) その他	5%

出典：筆者作成

### (1) 評価の概説・総論

総論の部分は、学士課程教育評価のある側面に関する議論のみならず、多くの場合が学士課程教育評価活動の展開、効果、評価指標、課題を含む全体を対象に取り上げて論じている。例えば、柳・龔（2008）は、大学評価政策への示唆、大学評価に関する立法、評価における大学側の主体性、第三者評価機構の過大依存、評価方法と評価結果の活用といった評価立法、評価活動、評価制度に亘って検討している。教育部委託研究グループが『中国高等教育』という学術誌で、国際的な大学評価の動向と評価制度改善構想（鐘ら、2009）などの一連の研究成果を打ち出した。また、多くの

研究者は国際比較で評価制度について論じている。特に、国際比較の視点を用いて、アメリカ、ヨーロッパ等の教育先進国の評価動向を踏まえ、学士課程教育を持つ大学をレベルに応じて分類をし、それぞれの類型に認証の評価、ア Krediteーションなどの評価へと変える構想が打ち出された(張, 2008; 孫, 2009a; 鐘, 2009)。2013年に第2ラウンド評価制度が改善された。大学の内発的整備の向上, 教育改革の深化, 大学による自主的発展の促進などの新たな評価制度に焦点を当てて論じている。こうして, 学士課程教育評価の課題と成果が理解できるのみならず, 第2ラウンド評価としてのあり方を知ることができる。

一方で, 編著書も各時期の学士課程教育評価に関する議論を行った。1987年に出版された『高等教育評価』という編著書は, その時期の大学評価の導入に関する実践活動をまとめたものである。1990年代に入って, 大学評価は工学分野から学士課程教育(原語は本科教学工作評価)へと移行してきた。元教育部副部長が編纂した『世紀之交的中国高等教育——大学本科教学评价』は, 1990年代の大学評価に関する公的な編著書であると考えられる。特に, 「普通高等学校本科教学工作合格评价调查报告」の一部内容の刊行(銭, 2000)などが, 現時点においても唯一の, 当時の学士課程教育評価の実践報告書である。

『中国高校本科教学评价报告(1985-2008)』は教育部の普通高等学校分類评价指标体系和方法に関する研究成果の一環として刊行された。この報告書の特徴は2003年から2008年にかけて学士課程教育评价活動について, 教育部の研究助成に関連した成果を踏まえ, 学士課程教育评价の成果と課題, 特に评价指標の定性的な分析に加え, 评价を受けた大学の関係者や评价専門家へのアンケート調査・分析も行った点にある。

## (2) 评价政策・制度

学士課程教育政策や制度に関する研究は様々な視点から行われている。劉(2007)が, 第1ラウンド评价实践に焦点を当て, 大学评价制度の改善における主体, 评价内容, 评价指标等の示唆を提示している。近年, ステークホルダー理論を用いる研究は中国の高等教育研究はもちろん, 中国の大学评价研究も盛んになっている。馬(2009)が, 大学のステークホルダーの視野から, 中国の大学评价制度で, 政府による大学评价が评价における大学の主体性の失い, 大学における教職員と学生の参加不足などを述べている。また, 王など(2000)は制度経済学(The economics of institutions)とゲーム理論(Game Theory)の視点, 楊・万(2008)は政策学の角度を用い, 学士課程教育评价の課題を論じている。

## (3) 评价効果と課題

この領域に関する研究は, 教育部の教育部の委託研究グループ(李, 2006; 李, 2009; 劉, 2012)などの研究成果が挙げられる。国の全体において评价を通じて, 大学が学士課程教育への重視, 教育改革の実施, 教育資源配置の強化, 教育活動管理の整備などの効果が明らかにされた。『光明日報』では, 高(2008)による「高校教学评价: 回顾与展望」の文章を掲載した。第1ラウンド评价が, 大学のポジショニングへの明確, 学士課程教育への中核的な位置づけ, 评价による教育資

源配置の改善，大学教育管理への規範化といった点が，顕著な効果をもたらした一方で，評価実践により，評価基準や指標の再考，大学の偽造行為と形骸化した評価活動という課題を打ち出した。

一部の研究文献は大学教職員を対象に考察している。張・薛（2009）は評価のフィードバックの有効性について，15校の大学の教職員に対するアンケート調査を行い，その分析結果，見える定量的内容に関する評価指標のフィードバックの効果は目立ったのに対して，見えない定性的内容に関する評価指標のそれは低かったといった課題を明らかにした。章・張（2008）が，ステークホルダーの大学教員に焦点を当て，大学教員の目から大学評価によるどのような効果や問題点をもたらしたかを実証研究している。その結果，評価による効果が，上記の教育部の研究結果とほぼ一致しており，評価による学習の雰囲気への促し，学生の成長と質の向上に関する点が効果をもたらしてきたとは言えない，ということが明らかにされた。さらに，大学評価が大学教育への影響について，高ら（2006）が，大学教職員を対象にするアンケート調査を実施し，「教員の教育活動への影響」，「教育管理への影響」，「学生の学習への影響」，といった3側面から分析し，「教員の教育活動」と「教育管理への影響」のほうが，「学生の学習への影響」より高い回答があった。それは，大学評価指標で学生の学習に関する指標が少ない，又は有効の評価方法がない現状にあるからである。また，彼らは，大学への影響が時が経つにつれて弱まっていくことと機関別評価の実施の必要性を強調している。周（2011）は新制度主義理論の視点で，学士課程教育評価が大学への影響について実証研究を行い，大学がこうしたアカウンタビリティのための評価制度において，利益の最大限のための積極的な行動をしたり，便宜主義的行動をしたりすることを明らかにした。

#### (4) 評価指標

評価指標は大学評価の中核的なものである。それに対する実証的な研究は教育部の委託研究グループである。屈ら（2006）が，評価指標における構成の合理化，内容の難易度などについて，評価専門家や大学関係者に対するアンケート調査を分析してきた。その結果，評価指標におけるインプット指標とアウトカム指標の関係性，評価による大学の分類，誰が評価者か，指標の定性的考察の重視，質向上への評価目的といった実証研究による課題を提示した。また，張（2007）が，75校の評価結果（2005年全年度）を例示とし，評価指標に焦点を当て，評価指標における基準の同一と特色，指標の定量項目と定性項目，指標の定量的な内容と定性的な内容，という相違にある大学評価指標の改善策を論じている。

#### (5) 評価主体

大学評価の主体に関する研究は，すでに様々な角度から指摘されている。高（2009）が，政策研究の立場から，大学評価において，政府の主導により大学側の自主性の失い，能動性の不足，評価活動の社会参加と客観性の不足などの課題を論じている。また，第三者評価機構に注目し，中国の大学評価の発足から現在までの評価者について論じている研究がある。劉・董（2010）が，中国の様々な評価活動の主体を歴史的に概観した上で，中国では，評価主体が，政府，地方，第三者機構，そして専門的評価組織へと変えたことを述べている。一方，第三者評価機構が大学評価とともに進

展してきた。特に2004年に、教育部は、高等教育教学評価センターという公的評価機構の設立が、大学評価活動の展開に役立っている。各省レベルや地域レベルの大学評価機構がいかに存在すべきか、法律や教育法規における第三者評価機構の位置づけが注目されている（駢，2012）。

#### (6) 評価事例

この領域に関する研究には、ほとんどの評価事例は、大学が自己評価の取り組み、評価の効果、評価の経験や課題を述べている。しかも、同大学の管理者層による文献が非常に多い。特に、1990年代に刊行された論文・論稿の多くは、大学側の評価関係者による経験談、評価実践のまとめに相当するものである（孫，1995；趙，1999）。例えば、寧波大学の経験談である「合格評價，重在建設——対本科教学工作合格評價的認識与体会——」（日本語訳：学士課程教育における合格評価への理解と示唆——教育整備を中心に——）（張ら，1996）等が挙げられる。

#### (7) その他

以上の分類では、一部の研究成果が教員、学生、評価プロセスなどの領域に亘っているが、紙幅の関係で、その他に入れる。例えば、許（2005）「關於普通高等学校本科教学工作水平評價工作程序」（日本語訳：学士課程教育評価活動のプロセス）などである。

### 4. おわりに

以上で述べたことに基づいて、中国語による中国の学士課程教育評価に関する研究の特徴は、次のようにまとめることができた。

まず、1985年から2015年にかけての30年間、中国の高等教育が、教育体制の改革から高等教育の大衆化に進んできた。中国の学士課程教育評価研究は量的に増加してきた。特に1999年に始まった高等教育の急速な拡大に伴い、学士課程教育評価を受けた大学が増えつつあるため、学士課程教育評価への関心が一層高まった。つまり、中国では、学士課程教育評価の政策の実施と拡大が学士課程教育評価研究の増加をもたらした。

次に、学士課程教育評価研究の動向は評価の概説・総論、政策・制度、評価活動、効果・課題、評価主体などに亘っての考察が見られる。本稿第3節の考察通り、1990年代まで、中国の大学評価研究は評価の概説・総論と評価事例に集中してきたが、2003年の評価制度化につれ、評価研究では政策・制度、評価効果・課題、評価主体、評価指標の研究内容が急速に増えてきた。そのように関心を招いてきたのは、大衆化が進む大学教育の質をいかに保証するかという課題を解決するために、評価をめぐる検討が進んでいるからである。だが、殆どの研究手法は文献資料を用いた分析である。訪問調査とインタビューという質的・量的な手法が極めて少ないのは事実である。こうした評価研究の重視と研究方法の偏りは、先行研究における鐘ら（2009）と楊（2015）が指摘した中国の高等教育研究の動向や特徴と同様の傾向が見られる。

残されている課題としては、次の点が挙げられる。

第一に、学士課程教育評価研究の持続性である。多くの研究文献は重複的なものであり、研究タイトルのみならず、違う研究者が同じ内容で書いていることがみられる。今までの評価研究は、評価制度、評価政策と評価活動を総合的に述べたものが多い。学士課程教育評価の制度・政策の導入、展開、制度化と新たな展開について、文献資料を丁寧に分析し、評価制度・政策の変容前後の関係性を解明する研究の持続性が課題である。

第二に、学士課程教育評価研究の深化である。学士課程教育評価の研究対象や研究内容が多岐に亘っているが、単に特定の時期の大学評価と導入から今までの大学評価を考察した研究文献が多い。しかも、多くの学術誌の頁数が4頁或は5頁の少ない紙幅に留まっているため、極めて限られた頁で中国の大学評価というような大きなテーマの考察は浅いものになる。

第三に、評価を受ける大学を対象としたミクロ研究が必要である。現時点で、多くの研究はマクロな国レベルでの評価に関する課題や評価政策などを対象としており、事例研究についても、当該大学の学長などの大学管理者と教員による自大学の評価事例を述べた文献が多い。自大学ではない研究者による大学評価の大学へのインパクトや課題に関する研究が求められる。

最後に、評価に関連する用語の多様性の扱いに関する課題である。中国の学士課程教育評価は、紆余曲折を経て2003年に制度化された。大学評価や学士課程教育評価などの公的な概念が依然に曖昧さに留まっている。評価の関連研究が盛んに取り込まれているが、評価用語の多様性は評価に関する理論研究の遅れを示していると考えられる。

本レビューでは、紙幅の関係で、中国における学士課程教育評価研究を歴史的、全体的に扱っているが、内容に関して十分なレビューができていないわけではない。評価課題研究、評価政策・制度研究、評価主体研究などに焦点を当て、その研究成果を深く扱うことができなかった。今後、こうした内容を考察することを通じて、中国の学士課程教育評価研究のさらなる発展が可能である。

## 【注】

- 1) 中国では、機関別評価とプログラム評価に分けている。機関別評価は大学院教育評価と学士課程教育評価から構成されている。プログラム評価は専攻別の教育評価や英語教育評価などから成っている。また、授業評価等他の評価がある。つまり、外国の大学評価に関する中国語の研究結果、大学評価の国内外の比較研究、大学院教育評価、プログラム評価、授業評価、などは扱わなかった。

## 【参考文献】

- 王戦軍・孫鋭（2000）「我国高等教育評価制度演進趨勢探析」『高等教育研究』（中国語）2000年第6期，78-81頁。
- 屈瓊斐・李小梅・李延保（2006）「把注意力吸引到更加重視質量內涵和效益上以來——普通高校本科教学工作水平評價指標體系和評價方法的調研分析報告—」『中国高等教育』2006年第10期，9-12頁。

- 許茂祖 (2005) 「關於普通高等學校本科教學工作水平評價工作程序」李延保 主編 (2009) 『中國高校本科教學評價報告 (1985-2008)』北京：高等教育出版社，239-253頁。
- 高慶蓬 (2009) 「高校本科教學評價主體的欠陷及優化」『國家教育行政學院學報』2009年第11期，28-31頁。
- 高耀明·張萍·陳慧·蘭麗麗·張光輝 (2006) 「本科教學工作水平評價對高校教學工作影響的調查研究」『高等教育研究』(中國語) 2006年第11期，85-90頁。
- 高等農林本科學校教學工作評價課題組 (1998) 「從教學合格評價看高等農林教育改革」『中國高等教育』1998年第4期，36-37頁。
- 吳歌 (2014) 「近五年我國高等教育評價研究現狀述評」『上海教育評價研究』2014年第1期，40-44頁。
- 吳啓迪 (2005) 「大力推進教學評價工作 切實提高高等教育教學質量——教育部副部長吳啓迪在首期教育部本科教學工作水平評價專家研修班上的講話」李延保 主編 (2009) 『中國高校本科教學評價報告 (1985-2008)』北京：高等教育出版社，125-147頁。
- 史朝·袁軍堂 (2008) 「中國高校首輪教學評價的意義與評價」『教育與職業』第36期，31-33頁。
- 辛彥懷·張連盈 (1995) 「我國高等教育評價十年的回顧與思考」『河北師範大學學報 (社會科學版)』第3期，84-90頁。
- 周濟 (2006) 「教學評價是提高教育質量的關鍵舉措 周濟部長在普通高等學校本科教學評價工作經驗交流暨評價專家組組長工作研討會上的講話」『中華人民共和國教育公報』2006年第9號。
- 周湘林 (2011) 「本科教學評價中高校行為的制度分析」『現代大學教育』2011年第1期，19-25頁。
- 荀振芳 (2005) 「大學教學評價的制度干預與學術自由」『清華大學教育研究』第26卷第6期，44-49頁。
- 章建石·張松青 (2008) 「高校教師視角下本科教學評價成效的調查分析」『國家教育行政學院學報』2008年第6期，30-34頁。
- 鐘秉林 (2009) 「本科教學評價若干熱點問題淺析——兼談新一輪評價的制度設計和實施樞架」『高等教育研究』(中國語) 第30卷第6期，38-45頁。
- 鐘秉林·劉海濤·劉臻·魏紅 (2009) 「總結經驗教訓 研究背景趨勢 創新評價思路——新一輪本科教學評價基本問題探析 (一)」『中國高等教育』2009年第1期，31-34頁。
- 鐘秉林·趙宬生·洪煌 (2009) 「我國高等教育研究的現狀分析與未來展望——基於近三年教育類核心期刊論文量化分析的研究」『教育研究』2009年第7期，14-56頁。
- 鐘秉林 (2014) 「遵循規律 平穩開展本科教學工作審核評價」『中國高等教育』第6期，4-7頁。
- 錢仁根 (2000) 「普通高等學校本科教學工作合格評價調查報告」周遠清主編 (2005) 『世紀之交的中國高等教育——大學本科教學評價』北京：高等教育出版社，313-336頁。
- 錢仁根 (2004) 「對評價指標內涵的理解和說明」李延保 主編 (2009) 『中國高校本科教學評價報告 (1985-2008)』北京：高等教育出版社，226-238頁。
- 曹如軍 (2008) 「對我國本科教學評價的深度思考」『國家教育行政學院學報』2008年第6期，25-29頁。
- 孫緯君 (1995) 「評價質量，有章可循——國家教委制定各科類教學工作合格評價方案」『中國高等教育』1995年第6期，35-36頁。
- 孫萊詳 (2009a) 「新一輪高等學校本科教學工作分類評價方案的若干探討」『中國高等教育評價』

- 2009年第2期, 3-10頁。
- 孫萊詳(2009b)「新一輪高等學校本科教學工作分類評估方案的若干探討(續)」『中國高等教育評估』2009年第3期, 3-10頁。
- 趙重平(1999)「以評促建 建評結合 重點建設—大連大學接受教育部本科教學工作合格略談」『大連大學學報』1999年第1期, 2-9頁。
- 趙立營·劉獻君(2008)「本科教學評估:理性反思與現實選擇」『中國高教研究』2008年第8期, 17-20頁。
- 張鈞澄·林九如·吳新亞(1996)「合格評價 重在建設 —對本科教學工作合格評價的認識與體會」『寧波大學學報:人文科學版』1996年第3期, 1-8頁。
- 張寶蓉(2007)「我國普通高校本科教學工作水平評估指標體系解讀 —以2005年大陸75所本科高校評估為例」『高教探索』2007年第4期, 15-19頁。
- 張堯學(2008)「在本科教學評估課題組研討會上的講話」李延保 主編(2009)『中國高校本科教學評估報告(1985-2008)』北京:高等教育出版社, 153-159頁。
- 張慧潔·張雲霞(2009)「我國第一輪本科教學評估中師資建設反饋調研報告」『國家教育行政學院學報』2009年第9期, 86-90頁。
- 張慧潔·薛震(2009)「我國第一輪本科教育評估反饋的有効性分析」『高教探索』2009年第2期, 47-53頁。
- 陳浩(1995)「抓機遇 爭生存 求發展 —山東輕工業學院以評促建工作透視」『中國高等教育』1995年第6期, 23-25頁。
- 陳玉琨(2008)「我國高等學校本科教學評估:課題與改革」『復旦教育論壇』2008年第6卷第2期, 5-8頁。
- 陳玉琨·李如海(2000)「我國教育評價發展的世紀回顧與未來展望」『華東師範大學學報(教育科學版)』第1期, 1-12頁。
- 馬廷奇(2007)「評後整改:完善我國高校教學評估制度」『高等工程教育研究』2007年第5期, 68-71頁。
- 馬廷奇(2009)「大學利益相關者與高等教育評估制度創新」『華中師範大學學報(人文社會科學版)』第48卷第2期, 116-121頁。
- 卞良·許曉東(2012)「近十年我國高等教育評估研究之研究 —基於5本期刊的實証分析」『現代教育管理』2012年第10期, 59-63頁。
- 駢茂林(2012)「行政職責轉變視角下高等教育評估機構的法律地位探析」『國家教育行政學院學報』2012年第3期, 64-68頁。
- 雷鳳桐(1989)「教育評估試點的啓示與建議」『高等工程教育研究』1989年第1期, 37-40頁。
- 柳友榮·龔放(2008)「理論不足與制度:本科教學評估之症結」『中國高教研究』2008年第11期, 28-30頁。
- 劉獻君(2006)「高等教育質量:本科教學評估的落腳點 —對我國本科教學評估的幾點思考」『高等教育研究』第27卷第9期, 16-21頁。
- 劉獻君(2008)「關於建設我國高等教育質量保證體系的若干思考」『高等教育研究』(中國語)第29卷第7期, 1-5頁。
- 劉獻君·于楊·張俊超·魏署光·丁鈴(2012)「高等學校本科教學評估的成效, 問題與改進對策」『高等工程教育研究』2012年第2期, 54-62頁。
- 劉智運(2007)「論中國高等教育評估制度的完善與發展 —以本科教學工作水平評估為例」『清華大

- 学教育研究』第28卷第3期，40-48頁。
- 薛天詳·房劍森（1994）「我国高教質量評估研究的歷史，現狀与趨勢」『高等教育研究』（中国語）1994年第3期，16-23頁。
- 李亞東·金同康（2005）「建立和完善中国大学評估的宏觀梓架——兼談教育評估中介機構在中国大学評估中的地位与作用」『評估与管理』2005年第4期，6-11頁。
- 李漢邦·徐巍（2004）「普通高等学校本科教学工作水平評估方案的分析与評估」『江蘇高教』2004年第5期，62-65頁。
- 李延保（2005）「具有实践意義的本科教学評估改革」李延保 主編（2009）『中国高校本科教学評估報告（1985-2008）』北京：高等教育出版社，263-270頁。
- 李延保（2006）「端正態度 明確責任 認真做好本科教学評建工作」『中国高等教育』2006年第8期，17-19頁。
- 李進才（2004）「对教育部評估新方案修訂情況的說明」李延保 主編（2009）『中国高校本科教学評估報告（1985-2008）』北京：高等教育出版社，207-216頁。
- 李進才（2006）「關於高校評估方案部分指標的調整說明」李延保 主編（2009）『中国高校本科教学評估報告（1985-2008）』北京：高等教育出版社，217-225頁。
- 李志義，朱泓，劉志軍（2013）「本科教学審核評估方案設計与实施重点」『中国大学教学』2013年8期，72-77頁。
- 劉鳳泰（2004）「高度重視 不斷完善 建立中国特色的高等教学評估制度」『中国高等教育評估』2004年第19期，19-21頁。
- 劉康寧·董雲川（2010）「中国高等教育評估組織多元發展的制度文本分析」『中国高教研究』2010年第6期，13-16頁。
- 余天佐·謝安邦（2008）「本科教学工作水平評估研究述評」『大学（研究与評估）』2008年第9期，28-52頁。
- 楊林·万学紅（2008）「从政策倫理視角探討高等院校本科教学工作水平評估面臨的挑戰」『高教探索』2008年第2期，49-53頁。
- 楊海燕（2015）「我国高等教育研究的熱点領域及前沿——基于CSSCI数庫2004-2014年收錄文献關鍵詞共現的計量和可視化分析」『復旦教育論壇』2015年第13卷第4期，46-56頁。
- 汪亞霜·楊曉江（2010）「本科教育評估研究之評估——基于CNKI（2003-2008）文献分析」『高教發展与評估』2010年第26期，25-30頁。
- 編纂書：
- 高等工程教育編輯部 編（1985）『高等教育評估的理論与方法初探』，武漢：華中工学院出版社。
- 周遠清主編（2005）『世紀之交的中国高等教育——大学本科教学評估』北京：高等教育出版社。
- 李漢育主編（1987）『高等工程教育評估』杭州：浙江人民出版社。
- 李延保主編（2009）『中国高校本科教学評估報告（1985-2008）』北京：高等教育出版社。
- 劉獻君主編（2012）『2003-2008年普通高等学校教学工作水平評估工作研究報告』北京：高等教育出版社。
- 新聞：

「新華時評：不要讓嚴肅的教學評估變成集體秀」北京：新華社，<http://news.163.com/07/1209/16/3V9JU15M000120GU.html>。

『中國教育報』「端正思想，抓住關鍵——在教學評估中應注意的幾個問題」1996年6月30日第3版。

『中國教育報』「正確的辦學指導思想是立校之本——開展高校教學工作合格評價的啓示之一」1998年4月20日第1版。

『中國教育報』「硬件要硬 軟件更要硬——開展高校教學工作合格評價的啓示之二」1998年4月24日第1版。

『中國教育報』「宏觀管理的有効手段——開展高校教學工作合格評價的啓示之三」1998年4月25日第1版。

『光明日報』「把脈高校教學評估」2007年9月5日第11版。

『光明日報』「本科教學評估的改革思路」2008年5月14日第11版。

『光明日報』「本科教學評估應反映常態質量」2011年11月2日第2版。

『光明日報』「教育質量監測，如何變負擔為動力？」2013年12月23日第6版。

高思平（2008）「高校教學評估：回顧與展望」『光明日報』2008年2月27日第11版。

唐景莉·溫小樂（2003）「教育部高教司司長談高教質量工程——訪教育部高等教育司司長張堯學」『中國教育報』2003年8月8日。

『南方週末』「勞了民 花了錢 見了實效 就不是形式主義——專訪教育部評估中心副主任李志宏——」2008年4月17日第2版。

『南方週末』「女秘書事件引發社會熱議 記者親歷高校評估總動員」2008年4月17日 第1版。

『南方週末』「高校評估該停了——專訪中科大校長朱清時講述中科大原生態迎評」2008年4月24日第2版。

劉振天（2013）「教學評估：是指揮棒，還是測量儀？」『光明日報』2013年10月13日第16版。

楊惠明（2015）「別讓教學評估擾亂了課堂」『中國青年報』2015年4月28日第7版。

## **A Review of the Research into Higher Education Evaluation in China**

Shimin LIN\*

The purpose of this paper is to review existing studies on the evaluation of undergraduate education in China and to identify challenges taking place in this earlier research. The literature which is reviewed in the paper includes main research papers, book chapters and other reports about the evaluation of undergraduate education in Chinese universities which were published from the 1980s to 2015. Although all these earlier studies were all published in the Chinese language, the review of them will be helpful and relevance to further understanding of the evaluation of undergraduate education in China in the historical and comparative perspectives.

The first section briefly introduces earlier studies of university evaluation in China and discusses the current status of the research into the evaluation of undergraduate education by journal types in historical perspective. The second section focuses on research issues and trends of the evaluation of undergraduate education by topic. The final section concludes by summarizing major challenges to the research into the evaluation of undergraduate education in China and the ideal method of carrying out the research in this regard.

---

\*Doctoral Student, Graduate School of Education, Hiroshima University